

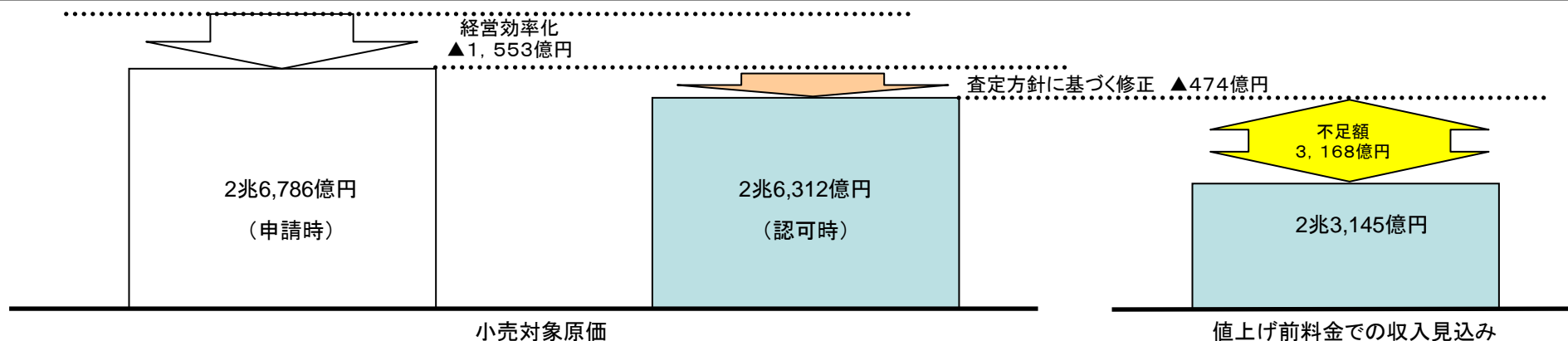
電気料金の値上げについて

平成25年4月

関西電力株式会社

1. 今回改定における料金原価

- ・原子カプルの再稼働の遅れにより、火力燃料費等の負担が大幅に増加したことに伴い、昨年11月26日、1,553億円の効率化を織り込み、小売対象原価2兆6,786億円にて経済産業大臣へ値上げ申請を実施いたしました。
- ・その後、電気料金審査専門委員会・公聴会などを経て、査定方針に基づく修正指示（474億円）を反映した結果、小売対象原価は2兆6,312億円となりました。なお、値上げ前料金での収入見込みは2兆3,145億円であり、不足額は3,168億円となります。



<小売対象原価の内訳>

	平成25～27年度平均		
	申請時(A)	認可時(B)	差引(B-A)
人件費	1,934億円	1,822億円	▲112億円
燃料費	9,321億円	9,224億円	▲97億円
購入電力料	3,269億円	3,224億円	▲46億円
修繕費	2,654億円	2,596億円	▲58億円
減価償却費	2,965億円	2,945億円	▲20億円
事業報酬	1,360億円	1,346億円	▲14億円
公租公課	1,761億円	1,749億円	▲12億円
その他	3,521億円	3,406億円	▲115億円
合計	2兆6,786億円	2兆6,312億円	▲474億円

<申請原価に織り込んだ効率化額>

(平成25～27年度の3年平均)

費用項目	効率化額
人件費	345億円
燃料費	486億円
購入電力料	287億円
修繕費	66億円
設備投資 関連費用	370億円
諸経費等	1,553億円
合計	1,553億円

※ 四捨五入の関係で、合計が一致しないことがあります。

◎今回の料金原価は、大飯3、4号機に加え、高浜3、4号機が平成25年7月以降に再稼働する前提で、原子力利用率を34.5%として算定しております。

●規制分野：平均9.75%の値上げ（5月1日から実施いたします。）

●自由化分野：平均17.26%の値上げに見直し

（4月1日から実施している値上げについて、規制分野の認可にあわせ、当初お願いしていた値上げ後の料金単価を見直します。）

⇒4月1日から4月の検針日前日までのご使用量と、申請時点の料金単価と今回見直した料金単価の差分にもとづき算定した額をあらためてお返しさせていただきます。

【申請時】

	値上げ後 平均単価	値上げ率
規制分野	22.93円/kWh	11.88%
自由化分野	15.91円/kWh	19.23%



【認可時】

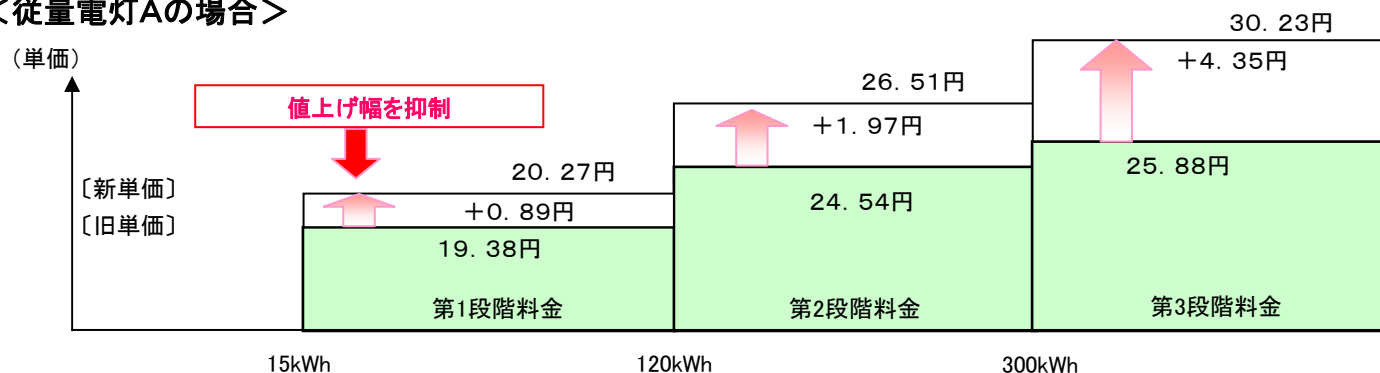
	値上げ後 平均単価	値上げ率
規制分野	22.49円/kWh	9.75%
自由化分野	15.65円/kWh	17.26%

<ご参考:主な小売料金(規制分野)の改定内容>

①お客さまのご負担軽減につながる取組み【従量電灯】

- ・3段階料金制度である従量電灯において、暮らしに必要不可欠な電気ご使用量に相当する第1段階料金は値上げ幅を小さく、第3段階料金は省エネルギー推進の観点から値上げ幅を大きくしております。

<従量電灯Aの場合>



②お客さまの選択肢拡大につながる取組み【はぴeタイム(季節別時間帯別電灯)】

- ・より多くのお客さまに、負荷平準化によって電気料金を削減できる「はぴeタイム」をお選びいただけるよう、ご加入条件の一部を変更(夜間蓄熱式機器保有要件を廃止)いたします。
- ・また、はぴeプラン(オール電化割引)は、平成27年4月1日以降、新規のご加入を停止いたします。

③お客さまからのご意見、ご要望にお応えする取組み【延滞利息制度の導入】

- ・これまでの「早遅収料金制度」を廃止し、「延滞利息制度」を導入いたします。